

Web調査における回答時間と回答者属性の関係について

社会データ構造化センター/
統計数理研究所 特任助教 稲垣 佑典

社会調査の回収率低下とWeb調査における新しい問題

- ◆ 訪問面接法、郵送法など従来の社会調査法で実施された調査への回収率/協力率は、軒並み**低下傾向**
- 例) 日本の代表的社会調査における回収率
 - 統計数理研究所『日本人の国民性調査』: 83% (1953年) → 50% (2013年)
 - NHK『日本人の意識調査』: 78% (1973年) → 57% (2013年)
 - SSM研究会『社会階層と社会移動全国調査』: 82% (1955年) → 44% (2005年)
- ◆ 社会調査・実験の場として、インターネット上の媒体利用が増加
 - インターネット調査会社によるWeb調査
 - Amazon Mechanical Turk, Yahoo!クラウドソーシング等によるWeb実験

調査概要と潜在ランク分析によるSatisficeの確認

- ◆ インターネット調査会社3社(A~C社)へ、対象者の抽出条件、画面構成、実施時期が可能な限り同じになるように調査を依頼
(本研究はJSPS科研費(課題番号: 26885123)の助成を受けた)
- 1) 日本人男女20~69歳を、性別×10歳刻みで100名ずつ割りあて、1000名のデータを収集
- 2) 1000名のうち50%以上がIMC(Instructional Manipulation Check)項目のページに60秒以上留まっている条件を達成するまでできるだけ回収を継続
(※本報告とは別内容の研究実施のため)
- 3) A社: 予算上の制約で1,071名分のデータまで収集(依頼数:3,989(回収率26.8%)、条件クリア:322名(30.1%))
B社: 1,306名分のデータを収集したところで断念(依頼数:4,159(回収率31.4%)、条件クリア:366名(28.0%))
+ 不適切回答の恐れがあるサンプルをB社基準に照らしてマーク
C社: 追加配信を含め3,069名までのデータを収集し、基準を満たす1000名分のデータを納品(依頼数:12,119(回収率25.2%)、条件クリア:1,000名(8.3%)、不適切サンプル:2,069名(17.1%))

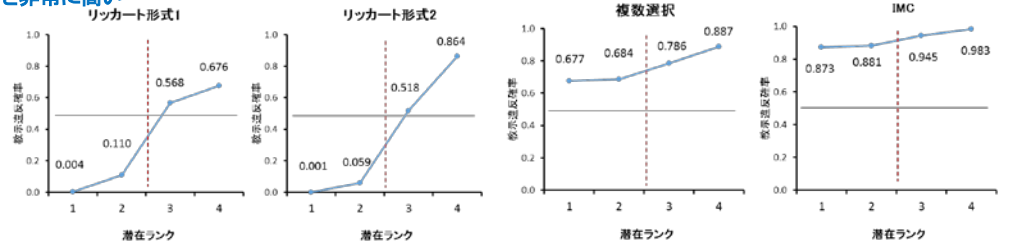
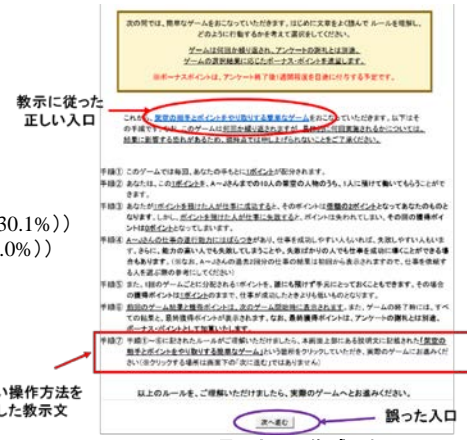
◆ Satisfice検知項目4項目で教示の遵守/違反率を確認

- いずれも**C社納品サンプルで遵守率高い**
- 4点リッカート尺度は2項目とも75%前後の遵守率
- マルチ項目は26%前後の遵守率で、教示違反が過半数
- IMCは違反率が**80%後半から90%台と非常に高い**

◆ 潜在ランク分析を用いて回答パターンからSatisficeの程度をランク付けし、暫定的な判別基準を作る

- ⇒ **4ランクモデル**を採択
- ⇒ ランク1・2を**遵守群**、
- ⇒ ランク3・4を**Satisfice群**として回答時間との関係を検討

- ◆ Web調査ではサンプル属性・回答の偏りが確認される(代表性の問題) ⇒ ただし、結果が全く異なるわけではないとの知見も存在(三輪 2009)
 - ◆ Web調査では**Satisfice(努力の最小限化: 回答者が注意を割かず教示に反する、あるいは不適切な回答をする=手抜き)が誘発されやすい**
(Couper, Tourangeau, Conrad, & Zhang, 2013)
 - Web調査, クラウドソーシング, 大学生サンプルと比較するとWeb調査で教示違反が最も多い(三浦・小林 2015a,b; 三浦・小林2016)
 - 解釈が困難化し、検定結果にも悪影響発生 (Maniaci & Rogge, 2014)
 - ◆ Web調査会社では、回答時間などのパラデータ(調査目的外に取得されたデータ)をSatisficeの判別基準として使用することがある
- 本研究の目的: 特定の属性を持つ回答者に回答時間の短・長が生じるのかを確認し、Satisficeとの関係を探る基礎資料とする



調査回答時間の記述統計と各属性との関係

- ◆ 調査回答時間データ (n = 5,327, ※記録に失敗したケース有り)
 - 平均回答時間: 1,870.31秒 (SD = 9,135.38)
 - ⇒ 全体としては31分程度(予想通り)だったが、バラつき大
 - Min = 106秒, Max = 210,900秒
 - ⇒ 96%以上(5,117ケース)が3,600秒(1時間)以内に回答終了
 - ⇒ 短い者は2分未満の回答時間(強いSatisfice)
 - ⇒ 長い者は2.4日(必ずしもSatisficeとはいえない)
 - 各社基準をサンプルに適用すると、ほとんどの場合で回答時間が長くなる(**Satisficeと短い回答時間の関連が示唆**)
 - 今回の分析で回答時間に一貫して差があったのは、学歴のみ

